

【日本の大学】第8回——大阪大学：「適塾」の伝統を継ぐ

大阪大学は日本で6番目の帝国大学として1931（昭和6）年に創設されたが、その原点は、江戸時代後期の医師で蘭学者だった緒方洪庵が1838（天保8）年に大阪で開いた適塾に見いだせるという。明治新政府の下で、緒方の弟子や息子が中心となって1869（明治2）年に設立した大阪仮病院や大阪医学校が幾度かの変遷を経て、1931年に大阪帝国大学の創立につながった。

適塾は洪庵が医院とともに開いた私塾で、その後、種痘法やこれら治療法などの研究を進めた。塾では、福沢諭吉、大村益次郎、長与専斎、大島圭介、佐野常民、橋本佐内など明治新時代を切り開いた塾生の多くが学んだ。

大阪大学には緒方洪庵の「人のため、世のため、道のため」という精神と大阪府民の学問への思いが受け継がれているという。2021年には創立90周年を迎えるが、適塾創設からは180年を超える歴史を誇っていることになる。

大阪大学のホームページなどから、その歴史や現状について触れてみよう。

大阪帝国大学は大阪府立医科大学を母体に、医学部と理学部の2学部からスタートした。初代の学長には世界的な物理学者の長岡半太郎氏が就いた。長岡は「阪大を日本一の大学にするため教授陣には私の力の限り新鋭をすぐって集まっていた。そして研究第一主義、殊に産業科学の研究に力を入れる機運をつくった」と述べている。

設立に当たっては、関西財界や府民の熱心な活動と支えがあり、民間の意思と財源により創設された帝国大学であった。創立2年後の1933年には、大阪工業大学（1896年に大阪工業学校として設立、1929年に大学昇格）が工学部として加わり、医学、理学、工学の理系帝国大学として本格的にスタートした。その後、微生物研究所、産業科学研究所が民間からの寄付などによって設立されている。

▽町人のための学問所

阪大のもう一つの源流とされるのが江戸時代中期に創立された「懐徳堂」であろう。1724（享保9）年に大坂の尼崎町（現大阪市中央区今橋）にできた町人による町人のための学問所だ。特定の学派・学説にとらわれない自由な学風を誇りとし、大店の主人から使用人までの多くの人々が聴講した。漢学・和学・詩文といった多彩な講義内容と、商用による途中退席を認めるという自由な学風があって、150年近くも西日本の学問の中心として栄えた。

戦災で講堂が焼失したが、戦後、阪大が法文学部を創設した際、戦火を免れた蔵書類が「懐徳堂文庫」として寄贈されたことにより、大坂の町に息づいた独創的な学問と思想、文化を継承する形となった。現在は、懐徳堂記念会がこうした精神を受け継いでおり、公開講座の開催や見学会、特別講演会などを実施しており、阪大の文系学部の精神的な源流と位置付けることができるだろう。

戦後の1950年には、官立の旧制高等学校だった大阪高等学校、浪速高等学校がともに廃校となり、新制の大阪大学に包括されて、一般教養部の南校と北校となっている。

2007年10月には、大阪外国語大学と統合して、新たな大阪大学が誕生した。大阪外語大は1921（大正10）年に、大阪・上本町の地に大阪外国語学校として創立され、司馬遼太郎などの著名な卒業生を輩出してきた。統合によって大阪大学は北摂の地に三つのキャンパスを持つ有数の国立大学となった。

▽国大では少ない外国語学部

その後も、次々に新しい学部、大学院、研究所などを整備して、現在は、吹田、豊中、箕面にキャンパスを持っている。本部事務機構は吹田にあり、豊中キャンパスには全学共通教育を担当する全学教育推進機構とその講義棟が置かれている。箕面キャンパスには世界言語研究センターと外国語学部がある。国立大学法人で外国語学部を設置しているのは阪大と東京外国語大学だけである。11学部（文、人間科学、外国語、法、経済、理、医、歯、薬、工、基礎工）、16大学院研究科（文、人間科学、法、経済、理、医、歯、薬、工、基礎工、言語文化、国際公共政策、情報科学、生命機能、高等司法、阪大など5大学連合小児発達学）、6付属研究所（微生物病、産業科学、蛋白質、社会経済、接合化学、レーザー科学）を要する研究型総合大学となっている。

教職員数は6708（うち女性2850）名、学部学生15285（同5243）名、大学院学生数（同2379）名、このうち外国人留学生2594名、外国人研究者1090名などとなっており（2019年5月現在）、1学年あたりの学生定員は国立大学で最も多くなっている。

現在の総長は18代の西尾章治郎氏である。京都大学出身の工学博士で1988年から阪大で勤務を始め、92年に工学部教授、2015年8月に総長に就任した。専門はデータ工学。

▽対話を通じ課題を解決

西尾総長は、2003年に制定された大阪大学憲章の基本理念に関して「対話の促進」「自律性の堅持」について触れ、「教職員並びに学生が立場にとらわれず対話を通じて相手を尊重し、直面する課題に対しては自らの意思においてその解決に信念を持って取り組むことを

意味しており、これらの基本理念を特に重視し、キャンパス内で広く実行されていくことを目指す」と述べている。

大阪大学憲章は次の通り。

1. 世界水準の研究の遂行

人間そのものや人間が構成する様々な社会、及びそれを取り巻く環境や自然のあらゆる分野について、また、それら相互の関係について、その心理を探究し、世界最先端の学術研究の場となることをめざす。

2. 高度な教育の推進

次代の社会を支え、人類の理想の実現をはかる有能な人材を社会に輩出することを、その目標とする。

3. 社会への貢献

教育研究活動を通じて、「地域に行き世界に伸びる」をモットーとして、社会の安寧と福祉、世界平和、人類と自然環境の調和に貢献する。

4. 学問の独立性と市民性

教育研究の両面において、懐徳堂・適塾以来の自由で闊達な市民的性格と批判精神やその市民性を継承し、発展させる。学問の本質を踏まえ、いかなる権力にも権威にもおもねることなく、自主独立の気概のもとに展開する。

5. 基礎的研究の尊重

すべての分野において基礎的・理論的な研究を重視し、世界水準の研究を自らの課題として、次世代においても研究のリーダーであることを標榜する。

6. 実学の重視

実学の伝統を生かし、基礎と応用のバランスに配慮して、現実社会の要請に応える教育研究を実践する。

7. 総合性の強化

総合大学としての特色を追求する。たんなる部局の集合体ではなく、人文科学・社会科学・自然科学・生命科学など、あらゆる学問分野の相互補完性を重視するとともに、新時代に適合する分野融合型の教育研究を推進する。

8. 改革の伝統の継承

つねに世界に先駆けて新たな学問分野を切り拓き、それに見合った教育研究組織を生み出してきた自己革新の伝統を継承し、絶えざる組織の点検・再編に努める。

9. 人権の擁護

その活動のあらゆる側面において、人種、民族、宗教、信条、貧富、社会的身分、性別、障がいの有無などに関するすべての差別を排し、基本的人権を擁護する。

10. 対話の促進

あらゆる意味での対話を重んじ、教職員および学生は、それぞれの立場から、また、その立場を超えて、互いに相手を尊重する。

1 1. 自律性の堅持

直面する課題に対し、構成員間の協調をとおして、自らの意思においてその解決を図る。

日文：滝川 進